

平成26年6月25日(水)

老球の細道 27

『成功のピラミッド』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

バスケットボールに従事する者にとってジョン・ウッデンの『成功のピラミッド』(下図参照)は金貨玉条の指針というべきものである。ウッデンのコーチング哲学の基本をすべて表した図は、勤勉さ、友情、忠義、協調性、そして熱意という土台の基に、頂上には成功が燦然と輝くピラミッドを形成している。バスケットプレーヤーが他のプレーヤーとして競争して勝つことよりも自分自身のために最善を尽くすことの重要性や、チームにおける協力を強調することで能力そのものの発達よりも個人としての性格や情緒の発達こそが成功をもたらすのだと強調している。バスケットボールのコーチ、プレーヤーとしてのみならず、人間としての成功を考える意味でも大いに役立つ哲学である。

ジョン・ウッデン曰く。

「辞書では勝利とか成功とかいうものは、力や名声のある地位にあることによって評価されたり、物質的な所有物があるという印象などによって評価されたりするということである。私自身の定義はこれとは大変違っている。私の成功の定義は次のように考えている。自分が自分にできる限りの最高のものになるために、ベストを尽くしたということを経験することからくる直接の自己満足の結果をもたらす“心の平和”を得ることである」

ジョン・ウッデンは20世紀のバスケットボール史上最高のコーチである。現役最後のアメリカUCLAヘッドコーチ時代、12年間で10回のNCAA選手権優勝を成し遂げた。この記録は未だに誰にも破られない前人未踏の大記録である。彼に与えられた称号は『コーチの神様』であり、バスケットボールのみならず、世界中の色々なスポーツ関係者から尊敬されている。彼の著書『They call me coach』はコーチを志す者のバイブルである。この中にも成功のピラミッドが詳しく説明されている。そして、こんな言葉もさりげなく載せられている。

「Lean as if you were to live forever ;
Live as if you were to die tomorrow」

(永遠に生きるかのように学べ。明日死ぬかのように生きよ)

かつてピタゴラス(ピタゴラスの定理で有名)は門弟たちに道徳律を課し、毎日、朝と晩に自己の良心を検査せよと命じたという。『成功のピラミッド』の24ある徳目を一つ一つクリアーするために次のようなことを実践したらどうだろう。ピラミッドの下の徳目から順次一つずつ、一週間の課題として徹底的に実行する。ノートを準備して1項目に1ページずつ割り当てる。日記風に各曜日ごと実行したこと、できなかったことを書き記していく。できた、できないを赤インク、黒インクなどで分けて記入すればよりわかりやすくなるだろう。赤インクが「できた」内容であれば、ノートが真っ赤に染まり、自然とモチベーションも高まるだろう。こうして最後まで進んでいくと25項目あるので25週間で全コースを一回りできる。1年だと約2回繰り返すことができる。3年間で6回繰り返せば、ひょっとして『成功』という頂上に辿り着いているかもしれない。

このノートの表紙には次のような言葉を書き記してほしい。

「栄光への道、限りなく遠い。今日の一步で近づく」



成功のピラミッド